２０２２（令和４）年度

事　業　報　告　書

自　２０２２年4月　１日

至　２０２３年3月３１日

公益財団法人日本デザイン振興会

①グッドデザイン賞事業

2022年度グッドデザイン賞は、前年度に引き続き審査委員長に安次富隆氏、審査副委員長に齋藤精一氏を迎えた。2019年「共振」、2020年「交感」、2021年「希求と交動」を踏まえ今年度のテーマは「交意と交響」とした。このテーマは、デザインは人々の希求に応えるために重要であり、分野や領域を超えて「意の力」を交わらせる必要がある。望ましい調和を目指して交響しながらプロセスを進めることが重要で、グッドデザイン賞はあらゆるデザインの営みが交わる場であり、関係性の成果や可能性を読み解き示すことが役割であるという意図がこのテーマには込められている。各審査プロセスやイベントの実施においては、新型コロナウイルス感染拡大予防措置を十分にとりつつ、グッドデザイン賞が持つ「発見」「共有」「創造」のサイクルをより拡充させることに努めた。

応募と受賞

2022年度グッドデザイン賞は4月1日から募集を開始し、5,715件のデザインに対して審査を行い、10月7日に1,560件の受賞およびベスト100ならびに金賞、グッドフォーカス賞の特別賞を発表した。また、11月1日にはグッドデザイン大賞を発表した。

審査対象数：5,715件
受賞数：1,560件
受賞企業数：1,099社

特別賞の内訳
グッドデザイン大賞（内閣総理大臣賞）：1件
グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）：19件
グッドフォーカス賞［新ビジネスデザイン］：3件
（経済産業省 大臣官房 商務・サービス審議官賞)
グッドフォーカス賞［技術・伝承デザイン］：3件
（中小企業庁長官賞)
同［地域社会デザイン］：3件（日本商工会議所会頭賞）
同［防災・復興デザイン］：3件（日本デザイン振興会会長賞）

グッドデザイン賞二次審査会場（愛知県国際展示場）

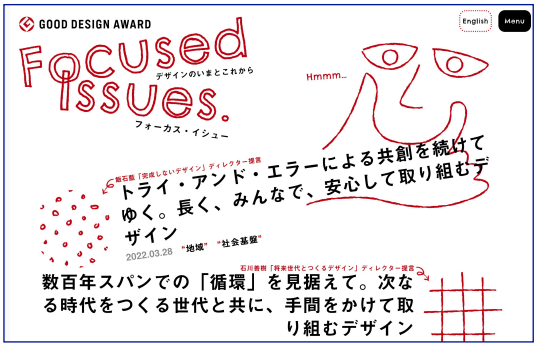
審査体制

多様な応募対象を適切に審査するために、2022年度も様々な領域の専門家を新たに迎えて総勢88名の審査体制を整えた。
また、「グッドデザイン・ベスト100」を特別賞候補として明確に位置付けるため、特別賞選考の最終プロセスとして、「ベスト100プレゼンテーション審査」を実施した。

グッドデザイン賞二次審査会

フォーカス・イシュー

フォーカス・イシューは、グッドデザイン賞受賞対象の中から、今後の社会におけるデザインの役割と可能性を見出す取り組みである。8年目となる2022年度は、5人のフォーカス・イシュー・ディレクターが各々の問題意識に基づいてテーマを設定し、受賞デザインを読み解き、提言をまとめた。前年度に引き続きウェブ・デザインメディアのdesigning とコラボレーションし、記事の同時掲載を実施。読者の半数以上を18〜34歳までの若年層が占めており、グッドデザイン賞と社会との新たな接点を生み出している。



フォーカス・イシュー特設サイト

■2022年度フォーカス・イシューおよびディレクター
「続いていくデザイン」飯石藍（都市デザイナー）
「ちょうどいいデザイン」鈴木元（プロダクトデザイナー）
「『わたしたち』のウェルビーイングをつくるデザイン」ドミニク・チェン（情報学研究者）
「ひとことで言えないデザイン」中川エリカ（建築家）
「半径5mの人を思うデザイン」ライラ・カセム（デザイナー/アートディレクター）

グッドデザイン・ベスト100

すべてのグッドデザイン賞受賞対象の中で、特に高い評価を得た100件を「グッドデザイン・ベスト100」として選出した。グッドデザイン大賞や金賞などの候補になるとともに、今後各分野を先導する起点となりうるデザインに位置づけられるものである。

ベスト100選考会

グッドデザイン大賞

グッドデザイン大賞は、すべての受賞デザインの中から1件が選ばれ、テーマ性・時代性・社会性などの面でその年度のシンボルとなるデザインとして位置付けられる。2022年度は10月7日に5件のファイナリスト（大賞候補）を発表。11月1日、グッドデザイン賞の審査委員と受賞者による投票を実施し、10月7日から11月6日まで行われたグッドデザイン・ベスト100を中心とした受賞展「GOOD DESIGN EXHIBITION 2022」の来場者による投票も加算した結果、アトリエe.f.t.等の「地域で子ども達の成長を支える活動 [まほうのだがしやチロル堂] 」が選出された。

グッドデザイン大賞「まほうのだがしやチロル堂」

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞は、ユーザーから長年にわたり支持されるデザインを讃えるとともに、よいものを長く使い続けることの意義を社会に示す賞である。2022年度はユーザー推薦および製造者等から応募された107件の中から、審査の結果21件が受賞した。また、受賞展「ロングライフデザイン賞2022 もののまわり」では、ナガオカケンメイ氏が率いるD&DEPARTMENTプロジェクトと協業し、受賞者への取材を軸にした受賞展示と媒体発刊を組み合わせた独自の受賞プロモーションを展開した。
会期：11月12日〜12月1日
会場：GOOD DESIGN Marunouchi

ロングライフデザイン賞受賞展

GOOD DESIGN EXHIBITION 2022

受賞プロモーションの中核企画として、「グッドデザイン・ベスト100」に選出されたデザインの展示を10月7日から11月6日まで開催。総合ディレクターに齋藤精一氏、コンセプトディレクターに小西利行氏、アートディレクターに色部義昭氏、空間ディレクターに永山祐子氏、マテリアルディレクターに倉本仁氏を迎え、「Change for Good.」のテーマのもと、受賞対象の展示に加え、展示会そのものをより“グッド”なものとする取り組みに挑戦した。会期中は、受賞者や審査委員など多彩なゲストを招いたトークイベントも実施した。

会期：10月7日～11月6日
会場：東京ミッドタウン・デザインハブ

GOOD DESIGN EXHIBITION 2022

受賞祝賀会

新型コロナウイルス禍の影響で2020年以降オンラインのみでの開催としてきたが、3年ぶりにリアル開催とした。受賞展と同様「Change for Good.」のテーマのもと、廃棄物を極力ださない会場構成や再生素材を用いた胸章の実現に挑戦した。

会期：11月1日
会場：グランドハイアット東京（※オンラインでの生中継も実施）

受賞祝賀会：ステージ

受賞祝賀会：エントランス

私の選んだ一品「デザインの手ざわり」展

グッドデザイン賞審査委員の個人的お気に入りの最新受賞作をコメントとともに紹介する「私の選んだ一品」の展示をGOOD DESIGN Marunouchi にて行った。

会期：10月7日～11月6日
会場：GOOD DESIGN Marunouchi

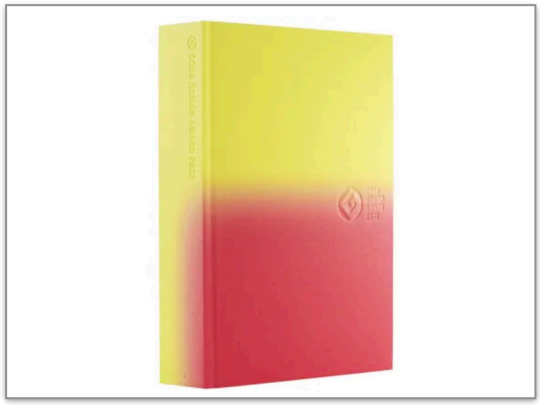
私の選んだ一品展

説明会・報告会

グッドデザイン賞の理念や応募方法を解説する説明会や個別相談会をオンラインで実施したほか、国内5箇所では対面で実施した。また、審査の視点を審査委員自らが解説するセミナーを計4回、オンラインで開催した。受賞発表後には、審査報告会を審査ユニットごとに収録しオンライン配信するとともに、「note」で要点をまとめた記事を掲載した。

出版

2022年度受賞デザイン全件を掲載した受賞年鑑『GOOD DESIGN AWARD 2022』を、2023年3月に発刊した。



受賞年鑑『GOOD DESIGN AWARD 2022』

グッドデザイン大賞・金賞・特別賞

グッドデザイン大賞（内閣総理大臣賞）

・まほうのだがしやチロル堂／アトリエe.f.t.＋合同会社オフィスキャンプ＋一般社団法人無限

グッドデザイン金賞（経済産業大臣賞）

・杖（T字杖、ロフストランドクラッチ）　ヴィルヘルム・ハーツ／風と地と木 合同会社
・歩行ナビゲーションシステム　あしらせ／株式会社Ashirase
・掃除機　日立 コードレス スティッククリーナー　PV-BH900SK／日立グローバルライフソリューションズ株式会社
・冷蔵庫　日立冷蔵庫　「Chiiil」 R-MR7S/R-MR7SL／日立グローバルライフソリューションズ株式会社
・ワイヤレスステレオヘッドセット　LinkBuds／ソニー株式会社＋ソニーグループ株式会社
・ゲーム機　Xbox Adaptive Controller / Xbox Series X / S／日本マイクロソフト株式会社
・射出成形機　小型射出成形機　AE-M3、AE-M10、AE-M3V／セイコーエプソン株式会社
・脳動脈瘤留置血流改変デバイス　Woven EndoBridgeデバイス／テルモ株式会社
・排泄ケアシステム　Helppad(ヘルプパッド）／株式会社aba
・ハンズフリーパーソナルモビリティ　UNI-ONE／本田技研工業株式会社
・戸建てリノベーション　HOWS Renovation 「国立の家」／株式会社リビタ
・住宅　バウマイスターの家／網野禎昭＋株式会社平成建設＋株式会社宮田構造設計事務所
・サービス付き高齢者向け住宅　銀木犀／株式会社シルバーウッド
・大蓮公園　ＳＵＥプロジェクト／南海不動産株式会社＋南海ビルサービス株式会社＋有限会社華まる園
・投票啓発キャンペーン　最高裁判所 裁判官の国民審査 特集サイト／日本放送協会
・医療系Webサービス　夜間・休日に患者と医師をつなぐ「ファストドクター」／ファストドクター株式会社
・The future of chocolate　The sustainable chocolate business model／Fu Wan Chocolate
・しまね総合診療センター NEURAL GP network／島根大学医学部付属病院総合診療医センター
・多地域就学　デュアルスクール／株式会社あわえ＋徳島県庁

グッドフォーカス賞［新ビジネスデザイン］（経済産業省大臣官房商務・サービス審議官賞）

・インクジェット複合機　DCP-C421W／ブラザー工業株式会社
・デジタル障害者手帳　ミライロID／株式会社ミライロ
・身体の不自由な人への服のお直しサービス「キヤスク」／株式会社コワードローブ＋博報堂ケトル

グッドフォーカス賞［技術・伝承デザイン］（中小企業庁長官賞）

・シニア向け・在宅介護向けルームウエア　keamu／冨士経編株式会社
・かるた　さかなかるた／株式会社千葉印刷
・おろし金　トミタ式安全おろし金（刃を使わない安全なおろし金）／株式会社トミタ

グッドフォーカス賞［地域社会デザイン］（日本商工会議所会頭賞）

・急須　chanoma kyusu series／有限会社丸よ小泉商店
・賃貸集合住宅　hocco／小田急バス株式会社＋株式会社ブルースタジオ
・地域再生のための活動　BEPPU PROJECT／特定非営利活動法人BEPPU PROJECT

グッドフォーカス賞［防災・復興デザイン］（日本デザイン振興会会長賞）

・災害用授乳カップ　災害用授乳カップ／ピジョン株式会社
・システム支援型モビリティサービス　なみえスマートモビリティ／日産自動車株式会社＋浪江町役場
・河川整備　景観や自然環境に配慮した塔の島河川整備事業／国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞（日本デザイン振興会会長賞）

・万年筆用インキ　色彩雫／株式会社パイロットコーポレーション
・ふきん　花ふきん／株式会社中川政七商店
・留め具　バッグ・クロージャー「J-NRP　JB-5」／クイック・ロック・ジャパン株式会社
・ポット　月兎印　スリムポット／株式会社フジイ
・哺乳瓶洗浄消毒用品　母乳実感 消毒ケース(旧名：ミルクポン 哺乳びん消毒ケース)／ピジョン株式会社
・掛時計、壁掛け時計　防塵型掛時計／セイコータイムクリエーション株式会社
・スツール　S-5026TK-NT ムライスツール／株式会社天童木工
・トロリーワゴン　ボビーワゴン／株式会社メトロポリタンギャラリー
・ペグ　ソリッドステーク／株式会社スノーピーク
・挿入ナット　鬼目ナット／株式会社ムラコシ精工
・軽量樹脂製運搬車　カルティオ／トラスコ中山株式会社
・棚システム　スタンダード エレクター シェルフ／エレクター株式会社
・ワイヤー吊り金具システム　アラカワグリップ／荒川技研工業株式会社
・フローリング　ライブナチュラルプレミアム／朝日ウッドテック株式会社
・スエード調人工皮革　ウルトラスエード®／東レ株式会社
・女性の健康情報サービス　ルナルナ／株式会社エムティーアイ
・列車内映像情報システム　トレインビジョン®／三菱電機株式会社
・歌声合成技術/ソフトウェア　VOCALOID／ヤマハ株式会社
・鉄道車両　阪急電車のデザイン／阪急電鉄株式会社
・商業施設　デザイン発信拠点「AXIS」／株式会社アクシス
・複合文化施設　スパイラル／株式会社ワコールアートセンター

審査委員長メッセージ「交意と交響」

安次富 隆 審査委員長

誰もが様々な不安を感じている中で、人々の希求に耳を澄まして、それに応えようと動く人たちがいます。そのような人たちどうしが積極的に呼応し、交わり動く中から生み出されるデザインは、何かをより良くしたい、人の気持ちに応えたいという、創造する意志に支えられています。この創意こそがデザインの原動力であり、社会の様々な場面でデザインの力が発揮されることが強く求められるようになってきています。

私たちが抱えている課題は、これまで以上に多様化、複雑化しています。これらの課題を解決して心地よい社会にしていけるよう、分野や領域を超えて「意の力」を交えて行かなければならないでしょう。

デザインは私たちの身の回りのあらゆるところに存在しています。それらはお互いに関係し合い、影響し合ってこの社会をかたち作っています。ひとつひとつのデザインが持っている力と、それぞれのデザインを担った人々の意志とを交わらせて、さらに響き渡らせていくことが大切なのではないでしょうか。

そうしてもたらされる動的な状態は、一致や均衡が取れた状態ではないかもしれないし、時には不協和音が生じることがあるかもしれません。しかし望ましい調和を目指して、交響しながら構築されていくプロセスにこそ意義があると思います。私たちにとって望ましい交響の状態を見すえながら、新しいデザインの取り組みがさらに生まれてきているのです。

グッドデザイン賞は、あらゆるデザインの営みが一堂に会する場です。社会に存在する無数のデザインを意識し、それらの関係性がもたらす成果や可能性を読み解き、示すことがグッドデザイン賞の大きな役割であると考えています。

2022年度のグッドデザイン賞で、新しいデザインに出会えること、新しい響き合いがもたらされることを楽しみにしています。

2022年4月1日

審査副委員長メッセージ「交意と交響」

齋藤 精一 審査副委員長

2021年度はグッドデザイン賞を通じてたくさんの「交動と希求」に出会うことができました。デザインの力を今まで以上に多くの人が希求し、交動したことで、生活を、社会を、価値観を変えるデザインが数多く生み出され、それらが今後社会に引き続き、深く、広く、実装されていくことを強く期待させるように思いました。「交わる」という姿勢が、さらに多くの分野に広がり、様々なところで人々が自分たちと違った価値観や技術との交わりを模索しているうねりも感じることができました。

モノやコトを創り、社会に発し続けている私たちデザインに携わる者にとって、無力感や悔しい思いをする出来事が現在進行系で次々に起きています。生活様式の変化や価値の多様化をはじめ、情報の取捨選択の必要性、デジタル化の力、データを収集・分析することの重要性、ものごとのプロセスの透明化など、社会とデザインが向き合うように求められていることの領域が広がり、それが高速で変化するいま、社会を支えるシステムや産業はそのスピードについていけているでしょうか？これまで使い続けてきたブラックボックス化された技術やプロセスが、いまあるべき社会の進化を遅くしてはいないでしょうか？

デザインという同じレンズで社会を様々な方向から見ることができる私たちが、形態や質量、素材や単位、コードやプログラムなどの違いを超えて、お互いの創造する「意」を交わすことによって、今まで諦めていた仕組みや製品や活動ができる可能性がまだまだあると思います。企業や団体だけではなく、何かを創る個人の「意」が交わり響き合うことで、様々なことがデザインの力を得て、さらに進化できると信じています。

グッドデザインは広がり続けています。私たち審査委員もそこに集うデザインの数々に共通点や繋ぐべきアイディアを見つけ、それらをフォーカス・イシューをはじめとする取り組みを通じて発信できるように議論を重ねていきます。様々なデザインをマクロに見通せる機会でもあるグッドデザイン賞を通して、日本だけではなく世界全体の社会や生活がより良くなるヒントを見つけて発信していきます。

今年も、交わりに溢れたこれからの羅針盤になるようなデザインに出会えることを楽しみにしています。

2022年4月1日

審査委員会

審査委員長　安次富 隆（プロダクトデザイナー）　審査副委員長　齋藤 精一（クリエイティブディレクター ）

審査委員

●ユニットリーダー　○フォーカス・イシュー・ディレクター

ユニット01：身につけるもの

●本田 敬　プロダクトデザイナー
○鈴木 元　プロダクトデザイナー
服部 滋樹　デザイナー／クリエイティブディレクター
廣川 玉枝　クリエイティブディレクター/ デザイナー

ユニット02：パーソナルケア用品

●秋山 かおり　プロダクトデザイナー
鈴木 啓太　プロダクトデザイナー
太刀川 英輔　デザインストラテジスト/進化思考提唱者
辰野 しずか　クリエイティブディレクター/デザイナー

ユニット03：文具・ホビー

●倉本 仁　プロダクトデザイナー
色部 義昭　グラフィックデザイナー／アートディレクター
橋倉 誠　プロダクトデザイナー
○ライラ・カセム　デザイナー・アートディレクター

ユニット04：生活用品

●大友 学　デザイナー／ブランドディレクター
林 裕輔　プロダクトデザイナー
藤城 成貴　プロダクトデザイナー
柳沼 周子　チーフバイヤー
山田 遊　バイヤー

ユニット05：生活家電

●玉井 美由紀　CMFデザイナー
川上 典李子　ジャーナリスト
賓角 光伸　プロダクトデザイナー
吉泉 聡　デザイナー /クリエイティブディレクター

ユニット06：調理家電

●三宅 一成　デザイナー
松本 博子　デザインディレクター
安井 重哉　UIデザイン研究者

ユニット07：映像 / 音響機器

●渡辺 弘明　インダストリアルデザイナー
片岡 哲　プロダクトデザイナー
佐々木 千穂　ユーザーエクスペリエンスデザイナー
○ドミニク・チェン　情報学研究者

ユニット08：情報機器

●宮沢 哲　デザインディレクター/プロダクトデザイナー
小野 健太　デザイン研究者, インダストリアルデザイナー
清水 久和　プロダクトデザイナー
林 信行　ジャーナリスト/コンサルタント
堀田 峰布子　ビジネスデザイナー

ユニット09：産業／医療　機器設備

●五十嵐 久枝　インテリアデザイナー
佐藤 弘喜　デザイン学研究者
田子 學　アートディレクター／デザイナー
藤城 成貴　プロダクトデザイナー

ユニット10：住宅設備

●田子 學　アートディレクター／デザイナー
小林 マナ　インテリアデザイナー
寺田 尚樹　建築家/デザイナー
橋田 規子　プロダクトデザイナー

ユニット11：家具・オフィス／公共　機器設備

●佐藤 弘喜　デザイン学研究者
柳原 照弘　デザイナー
山﨑 宣由　プロダクトデザイナー / UXデザイン研究者
吉田 貴子　インテリアデザイナー

ユニット12：モビリティ

●森口 将之　モビリティジャーナリスト
内田 まほろ　キュレーター
川西 康之　建築家/デザイナー/ファシリテーター
菅原 義治　クリエイティブディレクター

ユニット13：建築（戸建て住宅〜小規模集合・共同住宅）

●手塚 由比　建築家
網野 禎昭　建築設計／研究者
千葉 学　建築家
○中川 エリカ　建築家
藤原 徹平　建築家

ユニット14：建築（中〜大規模集合・共同住宅）

●駒田 由香　建築家
岩月 美穂　建築家
西村 浩　建築家・クリエイティブディレクター
林 厚見　建築／都市プロデューサー

ユニット15：建築（産業/商業施設）

●原田 真宏　建築家／大学教授
成瀬 友梨　建築家
山梨 知彦　建築家
吉田 愛　建築家

ユニット16：建築（公共施設）・土木・景観

●伊藤 香織　都市研究者
安東 陽子　テキスタイルデザイナー／コーディネーター
五十嵐 太郎　建築評論家
平賀 達也　ランドスケープアーキテクト
山﨑 健太郎　建築家

ユニット17：メディア・コンテンツ

●鹿野 護　デザインディレクター
上西 祐理　グラフィックデザイナー、アートディレクター
河瀬 大作　テレビプロデューサー
小西 利行　コピーライター/クリエイティブディレクター
ムラカミ カイエ　デザイナー/クリエイティブディレクター

ユニット18：システム・サービス

●内田 友紀　都市デザイナー
井上 裕太　プロジェクトマネージャー
緒方 壽人　デザインエンジニア
水野 祐　弁護士

ユニット19：地域の取り組み・活動

●岩佐 十良　クリエイティブディレクター、編集者
○飯石 藍　都市デザイナー
田中 元子　グランドレベルデザイナー
水口 克夫　アートディレクター
山阪 佳彦　クリエイティブディレクター

ユニット20：一般向けの取り組み・活動

●西田 司　建築家
ナカムラ ケンタ　編集者／求人屋
原田 祐馬　アートディレクター／デザイナー
廣田 尚子　デザインディレクター
横田 響子　プロジェクトオーガーナイザー

海外審査委員

Jongrae Park　デザイナー
Chiyi Chang　デザインディレクター
Chi mei Chang　グラフィックデザイナー
Manfred Wang　プロダクトデザイナー
Carl Liu　デザインディレクター
Gary Chang　建築/インテリアデザイナー
Jian Liu　都市プランナー/デザイナー
Xiaoxi Shi　インダストリアルデザイナー
Qiong Wu　インタラクション/インダストリアルデザイナー

海外デザイン賞との連携応募ユニット

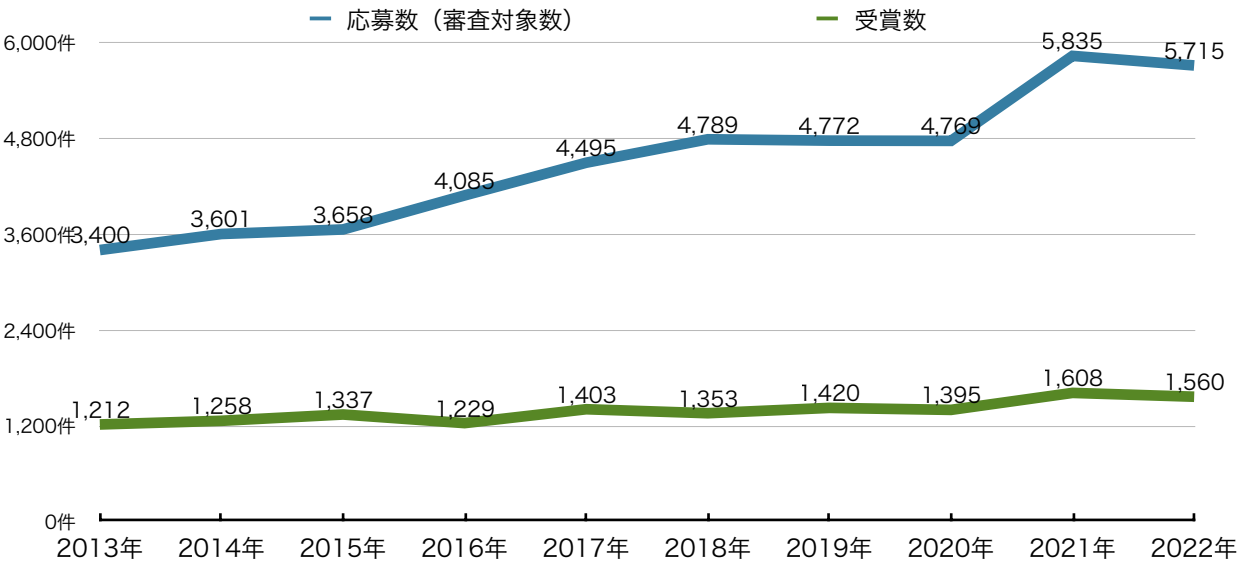
原田 祐馬　アートディレクター／デザイナー
安井 重哉　UIデザイン研究者
吉泉 聡　デザイナー / クリエイティブディレクター

グッドデザイン・ロングライフデザイン賞審査委員会

安次富 隆　プロダクトデザイナー
齋藤 精一　クリエイティブディレクター
藤本 幸三　アーティスティック・ダイレクター
菊地 優里　fennica ディレクター

事業実績

グッドデザイン賞応募数、受賞数の推移



都道府県別受賞件数

北海道	16	埼玉県	34	岐阜県	22	島根県	1	佐賀県	3
青森県	1	千葉県	17	静岡県	14	鳥取県	0	長崎県	4
岩手県	1	東京都	664	愛知県	59	岡山県	5	熊本県	3
宮城県	4	神奈川県	58	三重県	5	広島県	12	大分県	5
秋田県	0	新潟県	21	滋賀県	5	山口県	1	宮崎県	5
山形県	6	富山県	11	京都府	32	徳島県	3	鹿児島県	3
福島県	7	石川県	8	大阪府	165	香川県	3	沖縄県	9
茨城県	6	福井県	12	兵庫県	32	愛媛県	3		
栃木県	6	山梨県	1	奈良県	13	高知県	2		
群馬県	4	長野県	18	和歌山県	2	福岡県	19		

海外 国・地域別受賞件数

オーストラリア	1	ドイツ	4	ノルウェー	1	シンガポール	4	タイ	19
カナダ	2	香港	8	フィリピン	9	韓国	16	トルコ	2
中国	180	インドネシア	2	ポーランド	1	スイス	1	英国	3
フランス	1	マカオ	1	ポルトガル	1	台湾	95	アメリカ合衆国	42
								日本	1,178

スケジュール

4月1日 - 5月25日	グッドデザイン賞およびロングライフデザイン賞の応募受付期間
4月1日 - 4月30日	ロングライフデザイン賞ユーザーからの推薦期間
6月3日 - 26日	一次審査期間
6月27日	一次審査結果通知
7月5日 - 8月18日	二次審査期間
8月2日 - 8月4日	二次審査会、ベスト100選考会
8月19日	二次審査結果通知
9月16日	グッドデザイン・ベスト100デザイナーズプレゼンテーション
9月16日	特別賞審査会
10月7日	受賞発表（グッドデザイン賞、グッドデザイン・ベスト100、グッドデザイ金賞ほか特別賞）
10月7日 - 11月6日	GOOD DESIGN EXHIBITION 2022展
10月7日 - 11月6日	「私の選んだ一品 」展
11月12日 - 12月1日	「もののまわり LONG LIFE DESIGN 2022」展
2023年3月	受賞年鑑「GOOD DESIGN AWARD 2022」発刊

②海外事業

2022年度はコロナ禍での渡航制限も段階的に緩和され、グッドデザイン賞を軸とした対面での国際交流活動を徐々に再開した。日本デザインに対する注目度と関心は引き続き高く、オンラインでのセミナーや、対面でのイベントなど交流のチャンネルもハイブリッドへと進化し、各国や地域のデザイン組織との交流や良好な関係の維持に積極的に取り組んだ。

デザイン賞連携・運営支援

各国の産業振興及びデザイン振興を目的とした「デザイン賞連携」は、タイ「デザインエクセレンスアワード」、インド「インディアデザインマーク」、シンガポール「シンガポールグッドデザインマーク」、トルコ「デザインターキー」及びインドネシア「グッドデザインインドネシア」の5カ国で実施していたが、2022年はそこにフィリピン「グッドデザインアワードフィリピンズ」とラオス「グッドデザイン・ラオス」が加わり、7カ国での実施となった。
2022年6月には、デザイン賞連携スタート後初の「グッドデザインアワードフィリピンズ」が開催され、マニラで行われた審査会を当会職員が視察した。また2023年3月には、第１回グッドデザイン・ラオスが開催され、ビエンチャンで行われた審査会には日本人審査委員1名を派遣し、審査委員相互派遣の交流も開始した。いずれも、渡航前にはオンライン・ミーティングを重ね、現地での審査会も非常にしっかりと行われている様子を見ることができ、賞連携のパートナーとしての質を担保していることを確認した。
2022年度も各国アワードの受賞者によるグッドデザイン賞への応募があり、31件が受賞となった。受賞展では受賞全件を画像で紹介するバナーを展示会場に掲出し、各国の受賞対象を紹介した。

グッドデザインアワード・フィリピンズ審査会

第1回 グッドデザイン・ラオス審査会

国際交流

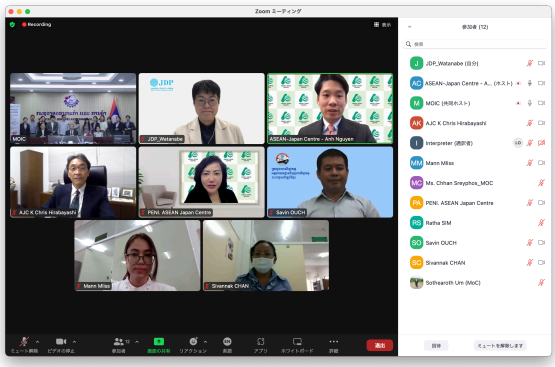
日本デザイン振興会の加盟する国際デザイン団体の1つである
World　Design Organization (WDO）の総会である世界デザイン会議「World Design Assembly」（WDA）の開催を2023年10月に控え、準備を本格化した。2022年4月に実行委員会を編成し、月に一回の実行委員会で開催内容について具体化する話し合いを進めている。
また日本からのWDO加盟団体である日本インダストリアルデザイン協会(JIDA)、千葉大学、武蔵野美術大学、多摩美術大学などに呼びかけ、運営事務局も組織し、具体的なスピーカー選定や会場との折衝、広報活動などを計画・推進している。2023年3月にはWDAの公式ウェブサイトもオープンし、国内外に向けて開催をアピールしている。

世界デザイン会議2023東京　実行委員会		
実行委員長	田中 一雄 氏	WDO Regional Advisor / 株式会社 GKデザイン機構 代表取締役社長CEO / JIDA特別顧問
副委員長	長澤 忠徳 氏	武蔵野美術大学前学長
実行委員	太刀川 英輔 氏	JIDA理事長 / NOSIGNER代表
実行委員	池田 美奈子 氏	九州大学大学院芸術工学研究院准教授
実行委員	久保田 晃弘 氏	多摩美術大学情報デザイン学科メディア芸術コース教授
実行委員	深野 弘行	JDP理事長
実行委員	矢島 進二	JDP常務理事

国際機関日本アセアンセンターとの協業により、カンボジア王国とのデザインプロモーションにおける相互協力に関する覚書に基づいて、2022年6月にオンラインミーティングを行い、今後の協業の可能性について話し合いを行なった。2022年10月にはグッドデザイン・ラオスのローンチに先立って、ラオスの一般市民向けにオンラインでデザインセミナーを開催し、約100名の参加者に向けグッドデザイン賞審査委員より日本のデザインに関する講義を行い、広くグッドデザイン賞をアピールする機会を得た。
また、経済産業省中南米室の要請により、コロンビアにおけるデザイン振興政策に対する協力について意見交換を実施。2023年2月にはフィージビリティ・スタディとしてコロンビアの首都・ボゴタに当会職員が出張し、コロンビアにおけるグッドデザイン賞設立の可能性を模索するため、様々なステークホルダーとの会合や、現地施設の視察などを行なった。

2023年2月27日から3月2日にかけて、中国深センで開催された「Design Shenzhen」展示会にグッドデザイン賞受賞対象及びロングライフデザイン賞受賞対象を出展した。久しぶりの海外展示となり、中国国内からの注目を集めた。

WDO世界デザイン会議東京2023公式ウェブサイト


日本アセアンセンター主催オンラインセミナー

Design Shenzhenでの展示

コロンビアでのグッドデザイン・セミナー

インターナショナル・メディアパートナー

グッドデザイン賞の海外での影響力をさらに高め、知名度を向上させるため、2022年度は応募初期段階から海外各国・地域のメディアパートナーと協力して応募促進・広報活動を行った。中国のデザイン・ウェブメディア「日本設計小駅」や台湾のデザイン・カルチャー誌「秋刀魚」と協力し、応募期間中にはポッドキャストを通じて様々なテーマのオンラインセミナーを開催した他、グッドデザイン賞特集ページを公開して露出を高めた。受賞発表時には、グッドデザイン賞公式ウェブサイトでの受賞対象一案の公開に合わせて、オンライン上で海外に対して受賞結果を発表した。

秋刀魚（台湾）への掲載

日本設計小駅（中国） への掲載

③広報事業

日本デザイン振興会では、様々なパートナーと連携し、場の提供を通したプロモーション活動を積極的に行っている。2007年からは東京ミッドタウン・デザンハブとインターナショナル・デザイン・リエゾンセンターを、2014年からはグッドデザイン賞受賞商品の販売を通じた広報機会としてGOOD DESIGN STOREの展開を、2015年からはGOOD DESIGN Marunouchiを開設し、展示会やセミナーなどを通じて様々なステークホルダーとともにデザインが持つ社会的価値を広く訴求している。

GOOD DESIGN Marunouchi

GOOD DESIGN Marunouchi

日本国内で初となる常設型の広報拠点としてオープンしたGOOD DESIGN Marunouchiは8年目を迎えた。2022年度は丸の内にもようやく街の活気が戻り、年間で約6.3万人が来場、海外デザイン振興機関による展示は行えなかったものの、外部及び共同の企画展10本、独自の企画展2本を含む17本の展示を開催、グッドデザイン賞の発信に加え、例年より多くのデザイン関連団体に発表・発信の機会を提供した。

グッドデザイン賞関連では、審査委員が受賞デザインから ”一品” を選び紹介する展示、デザインやものづくりの環境・背景に注目したロングライフデザイン賞受賞展、グッドデザイン賞受賞デザインのなかから様々な「あそび」に注目した企画展など5企画を実施した。

新たなデザインやプレーヤーを発掘する試みとしてスタートした企画展公募は2回目を実施。”不快”や"面倒"という一見ネガティブな心理効果を活用したデザインを取り上げる「世の中を良くする不快のデザイン展」を選出し、2022年度末から23年度初旬にかけて開催した。多くの方の意識下にもつ認識とテーマが合致し、企画展として歴代最多の来場者を記録し大きな反響を呼んだ。

2020年度コロナ禍の中でスタートした、自然の恵み豊かな地域で暮らしに根ざしたデザインに取り組むプレーヤーを紹介するオンラインプログラム「山水郷チャンネル」は引き続き配信を継続、15名をゲストに迎えた。また、ギャラリースペースでは山水郷チャンネルで取り上げたクリエイターが、自らが地域で取り組むデザインについて展示を通して紐解く展覧会を開催、行政関係者をはじめ本テーマに関心をもつ多くの方が来場した。

また、東京以外での展開として、21年度好評を博した第1回公募企画展「漫画とデザイン展」の大阪巡回を実施した。

私の選んだ一品展

不快のデザイン展

漫画とデザイン展 大阪巡回

2022年度開催のGOOD DESIGN Marunouchi企画展示

名称	会期	実施主体	入場者数
グッドデザインと暮らしの65年	4/4 - 5/8	JDP	6,625
パッケージング・インクルージョン vol.1 つながる	5/13 - 29	パッケージング・インクルージョン実行委員会	2,514
スペキュラティブデザインによる新時代の創造　― 未来の冷蔵庫、洗濯機 ―	6/4-13	武蔵野美術大学、ハイアールアジアＲ＆Ｄ株式会社	569
あそびのグッドデザイン	6/15-28	JDP	1,856

PVC Award 2021 受賞展示会	7/1-10	日本ビニル工業会 / 日本ビニール商業連合会 / 日本プラスチック製品加工組合連合会 / 塩ビ工業・環境協会	1,396
山水郷のデザイン2 - 3つのコンヴィヴィアリティ	7/15-8/14	JDP	3,795
サーキュラーシティ丸の内 循環のデザイン	8/19-9/20	JDP	2,280
「解体のレシピ」東京藝術大学美術学部デザイン科3年生成果展	9/23-10/1	東京藝術大学美術学部デザイン科	882
私の選んだ一品 「デザインの手ざわり」 - 2022年度グッドデザイン賞審査委員セレクション	10/7-11/6	JDP	9,795
ロングライフデザイン賞2022 もののまわり	11/12-12/1	JDP	4,127
彩椅展　sai - ten 多摩美術大学環境デザイン学科3年インテリア専攻	12/4 - 12	多摩美術大学環境デザイン学科	1,161
GOOD DESIGN Award2022 燕三条	12/16-12/26	公益財団法人燕三条地場産業振興センター	10,627
燕三条×ものづくり×人づくり　職人達の仕事	1/7-16	公益財団法人燕三条地場産業振興センター	1,556
すてるデザイン〜ゴミを価値に変える100のアイデア	1/20-30	多摩美術大学 TUB、同大 プロダクトデザイン研究室Studio3、同大 統合デザイン研究室	3,341
循環のレシピ - サーキュラープロダクトデザインの現在地	2/3-15	サステナブル・ブランド ジャパン	1,369
日本空間デザイン賞2022展	2/17-25	日本空間デザイン協会+日本商環境デザイン協会	1,039
暮らしの風景｜ロングライフデザイン	2/28-3/21	JDP	3,253
第2回企画展公募選出展企画「世の中を良くする不快のデザイン展」	3/24-4/23	株式会社電通クリエーティブX	26,435
漫画とデザイン展 大阪（KITAHAMA N Gallery）	8/26-9/4	JDP	809

「山水郷チャンネル」配信実績（Youtube 総視聴回数 2万回）

#65	吉野敏充さん（クリエイティブディレクター／吉野敏充デザイン事務所	#74	林千晶さん（プロジェクトマネージャー／株式会社ロフトワーク 共同創業者）
#66	井上博成さん（一般社団法人 飛騨高山大学設立基金 代表理事）	#75	佐藤哲也さん（ヘルベチカデザイン株式会社 代表取締役、一般社団法人ブルーバード 代表理事）
#67	林口砂里さん（（有）エピファニーワークス 代表取締役／一般社団法人	#76	藤岡聡子さん（ほっちのロッヂ 共同代表・プロデューサー／福祉環境設計士／(株)ReDo 代表取締役）
#68	岡田武史さん（株式会社今治.夢スポーツ 代表取締役会長）	#77	馬場 達郎さん（一般社団法人神山つなぐ公社 代表理事）
#69	イカハッチンプロダクション （船崎桜さん／ワタナベ ユカリさん／對	#78	梅原 真さん（梅原デザイン事務所 代表）
#70	立川裕大さん（伝統技術ディレクター・プランナー）	#79	山水郷チャンネル年末放談
#71	中坊壮介さん（プロダクトデザイナー）	#80	坂口 修一郎さん（一般社団法人リバーバング 代表理事／株式会社BAGN 代表取締役）
#72	山水郷のデザイン2 ギャラリートーク1	#81	福嶋 誠さん（有限会社きたもっく 代表）
#73	山水郷のデザイン2 ギャラリートーク2	#82	堀内 康広さん（トランクデザイン株式会社 代表取締役 / クリエイティブディレクター・デザイナー）

東京ミッドタウン・デザインハブ

日本デザイン振興会、日本グラフィックデザイン協会、多摩美術大学　TUBの3機関から構成されるデザイン情報の発信拠点・東京ミッドタウン・デザインハブでは、外部企画を含むギャラリースペースでの企画展示やワークショップの開催、東京ミッドタウンとの共催による「東京ミッドタウン・デザイン部」活動、インターナショナル・デザイン・リエゾンセンターを活用した活動などを複合的に展開した。

デザインハブ企画展示

2022年度は8本の企画展と恒例の夏のキッズワークショップを開催。合計来場者数は約52,000人となった。当会は、グッドデザイン賞を受賞した住宅デザインを通して現在の「住まう場」の多様なあり方を俯瞰する企画展「Gマークの住まいデザイン」のほか、グッドデザイン賞受賞展としてグッドデザイン・ベスト100の展示、独自企画として、コモンズや社会教育とデザインの関係性と可能性を探る展覧会「公民館のしあさってはデザインのしあさって！？」を開催。構成機関の合同展として「ゼミ展2023」を開催全国からの公募により11大学のゼミが参画、ギャラリーツアーも実施し出展者からも好評を得た。夏のキッズウィークは定員を絞りつつ例年通り開催したが、ワークショップ主催側、参加者側とも新型コロナ感染による開催中止や欠席などが出た。尚、東日本大震災から10年を機に2021年度に開催した企画展「東日本大震災とグッドデザイン賞 復興と新しい生活のためのデザイン」の内容をまとめた書籍を出版した。

公民館のしあさってはデザインの
しあさって!?展

ゼミ展2023

わたしのマチオモイ帖展

2022年度開催のデザインハブ企画展示

名称	会期	実施主体	動員数
第96回企画展「Gマークの住まいデザイン」	4/7-6/12	JDP	8,093
第97回企画展「日本のグラフィックデザイン2022」	6/30-8/11	日本グラフィックデザイン協会	13,212
東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズ・ワークショップ2022	8/13-8/21	東京ミッドタウン・デザインハブ	378
第98回企画展「ジカツデザイン」	8/26-9/25	日本グラフィックデザイン協会	3,052
第99回企画展「GOOD DESIGN EXHIBITION 2022 Change for Good.」	10/7-11/6	JDP	10,082
特別展「わたしのマチオモイ帖　10年をありがとう」	11/12-11/27	わたしのマチオモイ帖制作委員会	2,587
第100回企画展「かちのかたちたち展ー捨てる手前と後のこと」	12/5-25	多摩美術大学 TUB	4,101
第101回企画展「ゼミ展2023」	1/10-2/12	東京ミッドタウン・デザインハブ	5,021
第102回企画展「公民館のしあさってはデザインのしあさって！？」	3/3-31	JDP	5,238

東京ミッドタウン・デザインハブ・キッズワークショップ

東京ミッドタウン・デザインハブでは毎年8月、子供向けに気軽にデザインを体験いただくワークショップ企画「キッズデザインウィーク」を開催している。2022年度は計9企画25回を実施、延べ378名に参加いただいた。

2022年度実施のキッズワークショップ

名称	実施日	実施主体
夏！ いろんな布はり合わせ、旗をつくって風とあそぼう	8/13, 15, 16	多摩美術大学 生涯学習センター
リエゾンセンター・ライブラリーの夏休み	8/14	JDP
夏休み！ 親子de わくわくワークショップ「あったらいいな、こんな店」	8/15,16	JCD　一般社団法人日本商環境デザイン協会
夏だ！ 竹うちわを作ろう！ ＆竹のランバイクであそぼう	8/17	株式会社オープンハウス＋ 一般社団法人Spedagi Japan
古着からぬいぐるみを作ろう	8/17	andsewing 水口みわ
あつまれ！こどもミッドタウンで遊ぼう	8/19	武蔵野美術大学造形学部視覚伝達デザイン学科研究室＋OGチーム
作って、遊べる！ 親子で楽しむ電車ワークショップ!!	8/20,21	公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会
端材とネジを使ったキーホルダー制作	8/21	公益社団法人日本インダストリアルデザイン協会
BOX ART 昆虫とイラストと羽根でつくる宝箱	8/21	アサコラ♡キッズ♡アトリエ、ARIC.

東京ミッドタウン・デザイン部

東京ミッドタウン・デザイン部は東京ミッドタウンとの共催による活動で、当会は企画・運営と事務局を担っている。2017年から始まった本活動は、東京ミッドタウンをはじめとする六本木エリアに仕事や暮らしの場を持つ方や来街者を対象に　①クリエイティブな視点を仕事や生活に活かす　②デザインを切り口としたサードプレイスの提供　を目的として、小規模のギャラリーツアーやトークイベントなどを実施。2022年度はオンライン開催に加え会場開催も再開した。リアル参加者の合計は延べ約200名、オンライン参加者の合計は延べ約520名。
また、2019年度より実施している「リエゾンセンター・ライブラリー」は、JDPの蔵書や東京ミッドタウンが所有する書籍を活用して、ワーカーや施設来館者に対して、無料でデザイン関連書籍に触れることができる不定期のデザインライブラリーで、蔵書やグッドデザイン賞審査委員の著書の他、各出版社よりデザイン関連書籍の新刊約80冊を献本いただきライブラリーで紹介した。年間108日間開室、約5,852名が来室した。

「サーフェスデザイン＆テクノロジーの現在」展ギャラリーツアー

トークイベント「アイデアとか デザインとか 経営学とか」

ミッドタウンの桜と緑を楽しむツアー2023

2022年度東京ミッドタウン・デザイン部開催企画

実施日	名称
4/5	東京ミッドタウン「Street Museum 2022」アーティストトーク
4/19	多摩美術大学 TUB 第15回企画展「ゴミ――我々はこれからゴミ問題をどうデザインすべきなのか？展」ギャラリーツアー
4/20	専門性を持つ人が集い面白いことを持ち帰る「折詰め会」 Vol. 116　テーマ：「多様性／世代を超えて」

4/26	School of S²AT：建築家・大野友資さんによる社内向けトークセッション
5/19	専門性を持つ人が集い面白いことを持ち帰る「折詰め会」 Vol. 117　テーマ：「大人の夏休み、一ヶ月何する？」
5/21、6/9	東京ミッドタウン・デザインハブ 企画展「Gマークの住まいデザイン」ギャラリーツアー
6/15	JCD60周年記念誌『JCD60』を語る 「日本のインテリアデザインの60年」
6/23	専門性を持つ人が集い面白いことを持ち帰る「折詰め会」 Vol. 118　テーマ：ケアラー
7/11	AXISギャラリー x 東京ミッドタウン・デザイン部 「サーフェスデザイン＆テクノロジーの現在」展ギャラリーツアー
7/21	東京ミッドタウン・デザイン部 × TOTOギャラリー・間「末光弘和+末光陽子 / SUEP. 展「Harvest in Architecture 自然を受け入れるかたち」ギャラリーツアー
7/26	専門性を持つ人が集い面白いことを持ち帰る「折詰め会」 Vol. 119　テーマ：未来職業妄想
8/10	書籍『なんだこれ？！のつくりかた』出版記念トーク ～“なんだこれ？！”から紐解く現代美術とイノベーション
8/22	専門性を持つ人が集い面白いことを持ち帰る「折詰め会」 Vol. 120　テーマ：embrace 包摂 包容
9/22	専門性を持つ人が集い面白いことを持ち帰る「折詰め会」 Vol. 121　テーマ：建築よもやま話
10/25	専門性を持つ人が集い面白いことを持ち帰る「折詰め会」 Vol. 122　テーマ：最近なにして遊んでる？
10/27	書籍『コモンズ思考をマッピングする』刊行記念トーク「いまなぜ”コモンズ”なのか？　ー 横断的に考える“コモンズ”ー」
11/15	書籍『小商い建築、まちを動かす！』（ユウブックス）刊行記念 連続トークイベント 3 まちづくり編 山崎 亮×西田 司×若林 拓哉 「小商い建築を都市に挿入する」
11/28	専門性を持つ人が集い面白いことを持ち帰る「折詰め会」 Vol. 123　テーマ：「生きがい」
12/14	TOTOギャラリー・間 x 東京ミッドタウン・デザイン部「How is Life?――地球と生きるためのデザイン」ギャラリーツアー
12/19	専門性を持つ人が集い面白いことを持ち帰る「折詰め会」 Vol. 124 + 忘年会　テーマ：2022年を振り返る
1/25	専門性を持つ人が集い面白いことを持ち帰る「折詰め会」 Vol. 125 テーマ：積読本をくずす会
1/30	書籍『銀行とデザイン』刊行記念トークイベント「銀行にデザインが浸透するその裏側」
2/15	書籍『アイデアとか デザインとか』トークイベント「アイデアとか デザインとか 経営学とか」
2/21	専門性を持つ人が集い面白いことを持ち帰る「折詰め会」 Vol. 126 テーマ：メタバースで遊ぼう
2/27	多摩美術大学 TUB 第26回企画展「CERAMIC+GLASS+METAL：多摩美工芸の感と観 ― 優秀作品と課題紹介」ギャラリーツアー
3/8	絵本『ぼくは話があるんだ、きみたち、子どもたちだけが信じる話が』＆『いろたち』刊行記念トークイベント「キアロスタミの絵本とそのデザインを語る」
3/11	ギャラリー・間「How is Life? 地球と生きるためのデザイン」 × 東京ミッドタウン・デザインハブ 「公民館のしあさってはデザインのしあさって!?」共同トークイベント「個人で始める公共事業!? - 都市編 -」
3/22	専門性を持つ人が集い面白いことを持ち帰る「折詰め会」vol.127 「まち」
3/23	ミッドタウンの桜と緑を楽しむツアー2023

インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

東京ミッドタウン・デザインハブに設けられたインターナショナル・デザイン・リエゾンセンターでは、デザインハブ企画展関連セミナーのほか、国内外のデザイン関連機関やデザイン教育機関の事業の推進、各種のデザイン活動の促進、デザイン人材育成支援を目的とするセミナーやシンポジウム、ワークショップなどを展開している。2023年3月開催の「TOKYO CREATIVE SALON」ではトークイベント会場を提供した。

2022年度開催の主なセミナー、シンポジウム、ワークショップ

名称	実施日	実施主体
新規事業開発をサポートするセミナー相談会「デザイン経営の実践ポイント」	5/26	日本デザイン事業協同組合
TCL-多摩美術大学クリエイティブリーダーシッププログラム	6/4, 10/1, 11/26, 1/14, 1/15, 1/21, 1/27,	多摩美術大学
「World Interiors Day 2022」デザインシンポジウム ‒‒ うけつぐ伝統〜あらたな試み ‒‒	5/28	公益社団法人日本インテリアデザイナー協会・公益財団法人日本デザイン振興会
Dialogue by Designship with GOOD DESIGN AWARD「〈体験〉をデザインする ―メタバース時代における設計思想の再定義」	8/31	一般社団法人デザインシップ
WISE FORUM 2022	9/8, 11/10, 1/19	株式会社ワイス・ワイス
［CHORDxxCODEのビジネス創造力ワークショップ＜２日間＞］柔らかい分身ロボットがつくり出す「そこにいる感」のコミュニケーションデザイン	10/6,10/13	ダイヤモンド社
「産む」にまつわる価値観の問い直しを行うワークショップ	10/9, 11/6	一般社団法人公共とデザイン
Caring Design EXPERT 検定講座ワンデイ・ワークショップセミナー	10/15	一般社団法人　ケアリングデザイン
DIA2022受賞発表会・東京	12/9	DIA(Design Intelligence Award）・一般社団法人 国際デザイン研究フォーラム
TOKYO CREATIVE SALON「日本のクリエイティブ・デザインの今までと、これからを考える」スペシャルトーク	3/18,19	東京クリエイティブサロン実行委員会

GOOD DESIGN STORE・百貨店等との連携企画、見本市への参考出展

グッドデザイン賞受賞商品の販売を通じた広報活動として、野原ホールディングス株式会社の経営による「GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA」との提携、同ストアを通した百貨店等との売り場連携企画を展開している。来場層に合致した商品提案が奏功したことに加えTV等への媒体露出もあり、特に9月以降の売上高はコロナ禍以前を超え好調。旗艦店以外でのPOP-UP出店も積極的に実施した。
また、開催当初から協力出展している見本市「LIVING & DESIGN」が東京インターナショナル・ギフト・ショーと同時開催となったことにより、秋・春と参考出展。ロングライフデザイン／資源循環をテーマにグッドデザイン賞受賞商品を紹介した。

GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA

■GOOD DESIGN STORE TOKYO by NOHARA
丸の内店／KITTE 丸の内（常設）
北のクラフトフェア（ Pop-up／盛岡）10月7日～ 8日
東京ミッドタウン・デザインタッチ（Pop-up／東京）10月14日～11月3日
そごう西武（ Pop-up／東京）10月22～11月7日
鶴屋百貨店（Pop-up／熊本）11月16～11月30日
仙台フォーラス（Pop-up／仙台）3月3日～3月22日

東京ミッドタウン・デザインタッチ Pop-up

■受賞デザイン展示
Good Design Good Over 50's くらしのデザイン展2022
西武池袋本店　10月22～11月7日

第93回東京インターナショナル・ギフト・ショー2022　秋／2023　春
[LIVING&DESIGN]
9月7日～9月9日／2月15日～ 2月17日

ギフト・ショー 2022秋 ロングライフデザイン賞展示

オウンドメディアによる広報

主にグッドデザイン賞の受賞対象と受賞者を紹介し、デザインへの関心を高め、グッドデザイン賞のファンを増加させることを目的として各種情報発信活動を展開している。「Instagram」では、グッドデザイン賞受賞対象を1日1件ずつ紹介する記事を掲載し、フォロワー数は前年度より5千人以上増加し、5万人を超えた。「Facebook」もフォロワー数が3万6千人を超えているほか、「YouTube」（登録者数7千人弱）、「note」（フォロワー数7千人弱）でも継続的な情報発信を行なっている。また、チャットツール「Discord」において、グッドデザイン賞の新たなコミュニティを立ち上げるなど、さまざまなニーズに応じた複数チャネルによる情報提供を実施している。

グッドデザイン賞公式 Insttagram

受賞者プロモーション広告企画の実施

2022年度のグッドデザイン賞受賞者をフィーチャーするため、「東洋経済」における広告企画として、記事広告を制作。
グッドデザイン金賞受賞者三組およびグッドフォーカス賞受賞者のインタビューを掲載した。

東洋経済オンライン

④公共プロモーション事業

東京ビジネスデザインアワード

「東京ビジネスデザインアワード」は、東京都内の中小企業の事業支援・新規市場開拓を目的に毎年実施している。企業が有する高い製造加工技術や独自の素材などを「テーマ」として各社から募集して、それらを活用した新たなビジネスプランや新規用途開発のアイデアなどをデザイナーから募り、双方のマッチングにより各社の事業推進を図るコンペティションである。当会は主催元の東京都とともに、2011年度からこの事業の企画運営を担っている。
2022年度は、東京都内の中小企業から「テーマ」を募集し、15社17件の応募があった。審査を行い12件を選定（のちに2件が途中辞退）した上で、全国のデザイナーに対して新規用途開発を軸としたビジネス全体のデザイン提案を募集した結果、84件の提案が寄せられた。その中からマッチングの対象となった9件の企業とデザイナーに対して、知財戦略・デザイン契約、広報戦略、販路開

TOKYO DESIGN
BUSINESS DESIGN AWARD

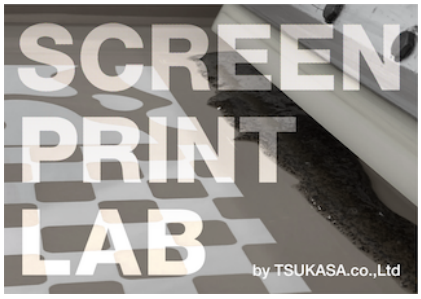
拓、デザイン開発導入のための講座などを、審査委員やプロジェクトマネージャーと伴走型で実施した。

■スケジュール
4月13日　開催概要発表・テーマ募集
7月5日　　テーマ審査会
9月1日　テーマ発表・提案募集
11月9日　提案一次審査
11月29日　提案二次審査
1月12日　テーマ賞発表
2023年2月9日　提案最終審査・結果発表・表彰式

■審査委員
山田 遊（バイヤー / キュレーター）審査委員長
石川俊祐（デザインイノベーション）
宇南山加子（デザイナー/ディレクター）
小池美紀（PR/ コミニュケーションディレクター）
日高一樹（特定訴訟代理人・弁理士 / デザインストラテジスト）
坊垣佳奈（株式会社マクアケ共同創業者/取締役）

最優秀賞 プリント基板の新しい使い方を提案するサウンドプロダクト

■最優秀賞・テーマ賞（1件）
提案：プリント基板の新しい使い方を提案するサウンドプロダクト
提案者：デデデ　田村匡將、元木龍也、高橋窓太郎、本杉一磨
企業テーマ：半田付け不要の基板ジョイント導通技術
企業名：有限会社ケイ・ピー・ディ



優秀賞 スクリーン印刷による新たな魅力の開発

■優秀賞・テーマ賞（2件）
提案：スクリーン印刷による新たな魅力の開発
提案者：株式会社サイド　大木陽平
企業テーマ：大型シルクスクリーン印刷による膜厚を出した平滑な大判フィルムの作成技術
企業名：司産業株式会社

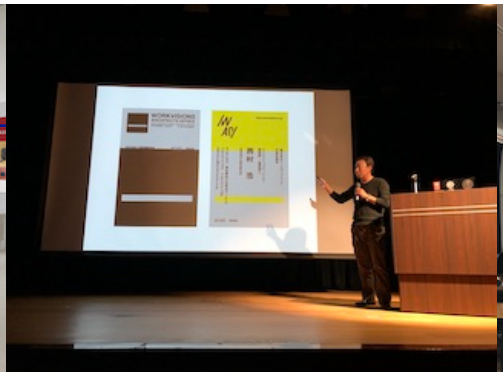
提案：貼箱製造の技術と設備を活用した箱だからできる玩具の提案
提案者：株式会社キュー　泉 伸明
企業テーマ：貼箱製造で培った技術及び加工設備
企業名：株式会社泰清紙器製作所

優秀賞 貼箱製造の技術と設備を活用した箱だからできる玩具の提案

自治体との協力に基づく企画の実施

九州地区における初の公式展示として「グッドデザイン九州2022」展を福岡市美術館で2023年1月10日から15日まで開催した。この15年ほどの間に九州でグッドデザイン賞を受賞した76事業者による出展を中心に、最新の受賞者による公開プレゼンテーションと、グッドデザイン賞審査委員による講演会を組み合わせた企画として、会期中に7千人を超える来場者を得た。
ユネスコデザイン都市である神戸市では、2023年2月22日に神戸市立六甲アイランド高校の美術・デザイン専攻学生を対象に、最新グッドデザイン賞受賞事例をテーマに出張講義を行った。
また旭川市では、2022年6月16日に「あさひかわデザインウィーク」のオープニング企画のシンポジウムに深野理事長が登壇した。

グッドデザイン九州 2022 展示



グッドデザイン九州 2022 講演会

六甲アイランド高校 出張講義

2025年大阪・関西万博への協力

2025年に開催される大阪・関西万博は「いのち輝く未来社会のデザイン」と、公式テーマにデザインを掲げる初の万博となる。そのため、当会ではロゴマークやキャラクター、VIの選考などの支援活動の他、博覧会協会内部に発足した「Expo Outcome Design Committee」の運営でもアドバイザーとして協力している。その一環として「万博を契機に、これからの日本の暮らしや町をつくる」をコンセプトとした「Co-Design Challenge」が策定され、中小企業や地域団体なども万博に関与できる公募事業において12件の選定に協力し、会場での実装を継続的に支援していく。

Expo Outcome Design Committee

⑤人材育成推進事業

第1回グッドデザイン・ニューホープ賞開催

クリエイターを目指す大学・教育機関の学生、及び卒業・修了後間もないクリエイターのデザインの作品・プロジェクト・研究を審査・顕彰することにより、新たなクリエイティブ人材の発掘とキャリア蓄積を支援し、デザインを通じた新たな産業及び文化の発展に寄与することを目的とした新しいデザイン賞「グッドデザイン・ニューホープ賞」の第1回を開催した。審査委員会は、審査委員長・副委員長はグッドデザイン賞と共通とし、安次富隆審査委員長、齋藤精一審査副委員長を迎えた。応募は4つのカテゴリーを設け、それぞれに審査委員を2名づつ委嘱し、審査を行なった。

GOOD DESIGN NEW HOPE AWARD

カテゴリー	応募数	受賞数
物のデザイン	201	43
場のデザイン	90	16
情報のデザイン	53	14
仕組みのデザイン	70	18
合計	**414**	**91**

審査委員	
安西葉子氏	小倉良介氏（富士フイルム）
山出淳也氏	工藤桃子氏（MMA Inc.）
佐々木康晴氏	河原香奈子氏（Takram）
林千晶氏	秋吉浩気氏（VUILD Inc.）

2022年5月～7月にかけて応募を受け付け、414件の応募を得た。応募は全国の大学・専門学校・高専など、103の学校から寄せられた。学校・学生数の地域的な偏りを考慮に入れても、関東と関西からの応募が全体の約8割を占めており、次年度以降これらの地域以外への周知に努める必要性を認識している。

地域	割合
北海道	0.9%
東北	1.7%
関東	58.4%
甲信越	1.7%
東海	8.5%

地域	割合
北陸	2.4%
関西	19.6%
山陽	2.4%
四国	0.5%
九州	4.0%

8月26日に非公開で審査を実施し、91件の受賞作品を選定した。受賞作品の中から、各カテゴリーの上位2作品を「優秀賞」として選定し、12月3日に8組の優秀賞受賞者による最終プレゼンテーションを公開で実施した。プレゼンテーションの後、最終審査を行い、その場で最優秀賞1件が発表された。
最終プレゼンテーションの後には、受賞者を招いて受賞祝賀会を開催し、受賞者・審査委員・大学教員・企業のデザイン部門関係者などで交流の場を設けた。

2023年1月～3月にかけて、受賞者向けプログラムとして、「デザインの現場見学会」として2つのセミナーと、3回シリーズのワークショップ・プログラムを開催した。最前線で活躍するプロフェッショナルの話を聞く機会となっただけでなく、参加した受賞者同士のネットワーク作りの場にもなった。

- 2023年1月26日　株式会社日本デザインセンター　色部義昭氏セミナー　参加者：18名
- 2023年2月18日　建築家・内藤 廣氏と巡る渋谷の街づくりを学ぶツアー　参加者：19名
- 2023年2月～3月　デザイン・ワークショップ（講師：原田祐馬氏）全3回シリーズ　参加者：22名

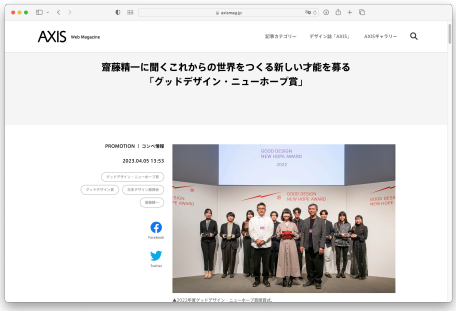
※2月10日に開催を予定していた富士フイルム・デザインセンター見学会は、当日荒天のため中止となった。2023年夏以降に再度開催を企画する予定。

さらに受賞者・受賞作品のプロモーション企画として、下記のようなメディア露出を図った。

- 2022年12月24日発売　雑誌「日経デザイン」2023年1月号に優秀賞8組の記事掲載
- 2023年3月18日～3月31日　「TOKYO CREATIVE SALON」丸の内会場にて優秀賞8組の展示
- 2023年4月5日～　ウェブ媒体「AXIS WEB MAGAZINE」にて優秀賞8組を紹介する記事出稿
- 2023年5月10日～　ウェブ媒体「JDN」「登竜門」「デザインノトビラ」にて最優秀賞受賞作品を紹介する記事出稿

日経デザイン 2023年1月号

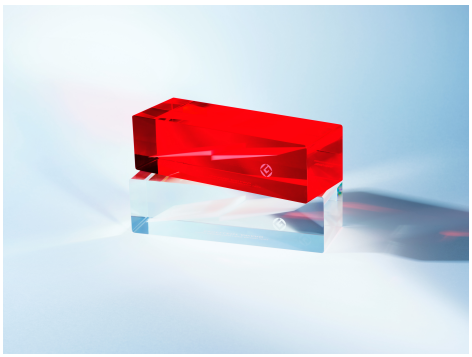
TOKYO CREATIVE SALON 丸の内会場



AXIS WEB MAGAZINE

また、2023年3月15日に、全受賞作品を収録した受賞作品集を刊行し、受賞者・大学教員・企業関係者などへと配布を行なった。

受賞作品集


優秀賞・最優秀賞 受賞トロフィー

表彰状

2023年度は、3月17日より応募受付を開始した。2022年度の活動を通して、大学教員やグッドデザイン賞審査委員、企業関係者からも非常にポジティブなコメントや感想をいただいており、2022年度以上の応募数を見込んでいる。

立教大学大学院における寄附講座「デザイン経営」の実施

立教大学大学院ビジネスデザイン研究科の要請に基づき「デザイン経営」寄附講座を、2022年6月から7月にかけて計14回開講した。受講対象はMBA取得の社会人学生である。経営やプロジェクト推進の資源にデザインを活かす意義を認識し、自ら創造的にそれを担える人材の育成を目的に、グッドデザイン賞受賞7社の経営者やプロジェクトリーダー、企業や行政との協業実績があるデザイナーによる講義を中心としたカリキュラムを編成し提供した。

出講企業・団体：

株式会社コークッキング、オーセンティックジャパン株式会社、Hair O'right International Corporation、NPO法人おてらおやつクラブ、台湾デザイン研究院、株式会社HAGI STUDIO、富士フイルム株式会社

教育機関との連携企画

本年度もプロジェクトデザインで社会を変革する力を持つ人材育成を目指す事業構想大学院大学と連携し、月刊誌『事業構想』で「ビジネスデザイン」をテーマにした連載企画（2023年3月で56回目）と、教育業界を対象にした雑誌『先端教育』で、グッドデザイン賞を受賞したデザインを毎月紹介した（2023年3月で41回目）。 また、宮城大学デザインスタディセンターと連携し、グッドデザイン賞受賞者による演習講座「Good Design Lecture」（本年で5年目）を福井県鯖江市のTSUGI llc.の新山直広氏と、奈良県東吉野村のオフィスキャンプの坂本大祐氏を講師に招き、2022年12月8日に「地域におけるデザイナーの新しい役割」をテーマに開催した。

宮城大学でのGood Design Lecture

⑥情報開発事業

60年以上にわたるグッドデザイン賞の運営によって蓄積されている情報資産とブランド価値を活用することによって、新規事業の立ち上げや各種事業の支援を行った。

公式ウェブサイトリニューアル

約9年ぶりとなるグッドデザイン賞公式ウェブサイトのリニューアルを実施した。閲覧者にとっての理解のしやすさを重視し、特に情報構造設計に力点を置き開発を進めた。閲覧者層を大きく３セグメントに分類し、それぞれに対して適切な情報が提供できるようコンテンツ整備を行い、結果、より広い層にデザインへの興味を持ってもらうため、オウンドメディア「.g Good Design Journal」を本サイトに実装した。また、不十分だったモバイル機器への対応も今回のリニューアルで大幅に改善し、2023年4月4日に公開した。

新公式ウェブサイト トップページ

デザイナーデータベース事業

デザイナーデータベース構築にむけ、グッドデザイン賞事業全体のデータマネージメント・プラットフォーム (DMP) 基盤の構築を進めた。2022年度は、昨年整備を進めたDMP基盤を活用し、過去から現在までの企業の全受賞対象リストの公開を目指し、企業の名寄せワークフローの確立、およびデータ整備を行い、前述のウェブリニューアルと足並みを揃え開発を進めた。

.g Good Design Journal

リサーチ研究事業

リサーチ研究事業推進のため、デザイン関連企業・団体及び有識者等へのヒアリングを進め、今後実施するべき事例の収集と精査に努めた。その結果、まずは日本デザイン振興会の理念と行動指針を明確にした上で、収集した事例の中から具体的に着手すべき項目を洗い出すこととなり、株式会社KESIKIとともにプロジェクトをスタート。パーパスを策定し、次年度以降のアクションプラン策定を開始した 。

2022（令和 4）年度事業報告（総務・管理業務）

1. 会務の実施(役員会等の開催)について

(1)評議員会

回	日時・場所	議題等
第 31 回	2022 年 6 月 17 日(金) 15:30-17:00 東京ミッドタウン・カンファレンス ルーム9	議題 ・2021(令和 3)年度決算報告書(案)について ・次期評議員・理事・監事の改選(案)について 報告事項 ・2021(令和 3)年度事業報告書について ・今年度のグッドデザイン賞事業現況報告について ・グッドデザイン・フェロー称号贈呈者について その他
第 32 回	2023 年 3 月 22 日(水) 15:30-17:00 東京ミッドタウン・カンファレンス ルーム9	議題 ・2023(令和 5)年度事業計画書(案)について ・特定資産「WDO 世界デザイン会議東京 2023 資金」の設定(案)について ・2023(令和 5)年度収支予算書(案)について ・規程制定及び改正(案)について (1)グッドデザイン・ニューホープ賞審査委員会設置規程制定 (2)事務局組織規程改正 (3)会計規則改正 ・人事 報告事項 ・2023 年度グッドデザイン賞審査委員、グッドデザイン・ロングライフデザイン賞審査委員委嘱並びにグッドデザイン・ニューホープ賞審査員委嘱 について その他

（参考）「評議員候補者選定委員会」

評議員及び役員(理事、監事)の任期が 2023 年 6 月に同時に到来するため、評議員会の決議により「評議員候補者者選定委員会」を設置(3 回開催)し、次期評議員及び役員候補者推薦調査を実施の上、次期評議員及び役員候補者を選出した。

第 1 回: 2022 年 11 月 18 日(金)
次期評議員及び役員候補者推薦調査の実施:2022 年 12 月 14 日～12 月 27 日
第 2 回: 2023 年 1 月 25 日(水)
第 3 回: 2023 年 3 月 22 日(水)

(2)理事会

回	日時・場所	議題等
第 41 回	2022 年 6 月 2 日(水) 15:30-16:45 対面及び WEB 会議 メイン会場:東京ミッドタウン・カンファレンス ルーム9	議題 ・2021(令和 3)年度事業報告書(案)について ・2021(令和 3)年度決算報告書(案)について ・グッドデザイン・フェロー称号贈呈候補者(案)について ・評議員会の招集(案)について 報告事項 ・今年度のグッドデザイン賞事業現況について
第 42 回 (臨時)	2022 年 8 月 17 日(水) 書面及び電磁的記録による理事会	議題 ・公益財団法人日本デザイン振興会事務局組織規程」の改定及び「WDO 世界デザイン会議東京 2023 実行委員会設置規程」の制定(案)について
第 43 回	2022 年 12 月 14 日(火) 16:00-17:10 対面及び WEB 会議 メイン会場:インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター	議題 ・次期グッドデザイン賞審査委員長及び副委員長について ・規程改正について (1)グッドデザイン賞審査委員会設置規程 (2)公印規程 報告事項 ・2022 年度事業進捗状況について ・世界デザイン会議総会予算について その他
第 44 回	2023 年 3 月 2 日(木) 15:30-17:00 対面及び WEB 会議 メイン会場:インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター	議題 ・2023 年度事業計画書(案)について ・WDO 開催予算 特定資産の設定(案)について ・2023 年度収支予算書(案)について

回	日時・場所	議題等
		・規程制定及び改正(案)について (1)グッドデザイン・ニューホープ賞審査委員会設置規程制定 (2)事務局組織規程改正 (3)会計規則改正 ・2023 年度グッドデザイン賞審査委員委嘱(案)、グッドデザイン・ロングライフデザイン賞審査委員委嘱(案)並びにグッドデザイン・ニューホープ賞審査委員委嘱(案)について ・評議員会の招集(案)について その他
第 45 回 (臨時)	2023 年 5 月 15 日(月) 書面及び電磁的記録による理事会	議題 ・「事務局等組織規程」、「職員給与規程」、「旅費規程」及び「育児・介護休業規程」の改正(案)について

(3)会計監査等

①監事監査:5 月 31 日(水)

目的: 2022(令和 4)年度事業報告書(案)、2022(令和 4)年度決算報告書(案)

②監査法人監査:EY 新日本有限責任監査法人会計監査

(期末監査)

2022 年 5 月 12 日(金)、13 日(土)、18 日(木)、19 日(金)、20 日(土)、25 日(水)、30 日(火)

当会会議室

目的:2022(令和 4)年度決算処理

(期中監査)

2022 年 10 月 4 日(火)、11 月 2 日(水)、12 月 7 日(水)、19 日(月)、

2023 年 2 月 13 日(月)、3 月 16 日(木) 当会会議室

目的: 2022(令和 4)年度会計処理

2. 賛助会員の現状について

2022 年度末の賛助会員及び情報会員数は 173。(会費は広く公益事業に役立てている。)

近年は、会員企業等の経費削減や組織改編により会員数が漸減傾向にあり、2022 年度は 5 企業より退会届が提出された。

3. 後援、協賛事業について

2022 年度に当会が後援並びに協賛、協力の名義を提供した外部企画は、38 団体延べ 46 件に協力している。

(1)供与先内訳

自治体及びその関連機関	デザイン専門団体	業界団体	民間企業	教育機関	海外機関	任意団体
12	6	9	15	2	1	1

(2)事業内訳

デザイン展	見本市	デザインコンペ	セミナー・ワークショップ等	その他
9	13	12	11	1

4. グッドデザイン・フェローについて

第 41 回理事会の議決により、下記 1 名に称号を贈呈。(敬称略)
川上元美

なお、新型コロナウイルス感染症拡大により、贈呈式の開催は見合わせた。

5. 業務管理・調整について(規程、内規、業務調整等の実施)

(1)各種規程・内規等の新設及び改正

年月日	規程等	実施事項	概要
2022 年 8 月 17 日	事務局組織規程	改正	WDO 世界デザイン会議東京 2023 実行委員会 を新設。
	WDO 世界デザイン会議東京 2023 実行委員会設置規程	新設	WDO 世界デザイン会議東京 2023 の企画、運営をするための実行委員会を新設。東京会議実施のための時限組織。
2022 年 12 月 14 日	グッドデザイン賞審査委員会設置規程	改正	・審査委員長及び副委員長の任期を一年間に改正 ・任期満了後も新たに選任される審査委員長又は副委員長が就任するまで、審査委員長及び副委員長としての役割を担うと規定を新設。

2022 年 2 月 14 日	公印規程	改正	公印を押印する文書を限定し、それ以外の文書は押印を省略できると改正。
2023 年 1 月 1 日	事務決裁に関する内規	改正	ワークフローシステムの導入に伴い、事務決裁の方法を、原則として電子的方法とし、書面による方法も可能とした。
2023 年 2 月 24 日	役職員のレンタカー使用内規	新設	出張時に使用する場合の取扱いについて規定。
2023 年 3 月 2 日	グッドデザイン・ニューホープ賞審査委員会設置規程	新設	人材育成のために創設された若手を対象とする賞の審査委員会について規定。
	事務局組織規程	改正	事業部内にデザイン人材開発センターを設置。
	会計規則	改正	内閣府立入検査による指摘を受け、残高確認条項を新設。
2023 年 3 月 20 日	人事考課実施に関する内規	改正	新人事制度実施による改正
	人事考課(期末手当)実施に関する内規	改正	新人事制度実施による改正
	職員月額給与の限度額を定める内規	新設	新人事制度実施による制定
2023 年 4 月 1 日	新型コロナウイルスに係るワクチン接種を受ける場合等の勤務に関する取扱い　内規	改正	本内規の有効期間を 2023 年 5 月 7 日まで延長し、新型コロナウイルス感染症が2類から5類へ移行した 5 月8日をもって終了。

(2)各種業務調整

(JDP 勉強会)
2022 年度は、特許庁より講師を招き知的財産権(①商標権、②意匠権)をテーマとした勉強会を2回実施するとともに、外務講師を招きダイバーシティをテーマとした勉強会を実施した。

(職員研修)
2022 年 5 月 16 日　新任管理者研修を実施した。

(特許庁との人事交流)
特許庁意匠審査官派遣研修生 2 名の研修を事業部にて行った。

(新型コロナウイルス感染症拡大に対する措置)
国、東京都の感染拡大防止に向けた取組みの協力要請に基づき、これまでの当会の取組みを継続して行い、勤務については、東京都の感染状況に応じ、在宅勤務を 3 割または 5 割で実施した。

6. 行政当局等による監査、立入検査等について

内閣府(公益認定等委員会)立入検査
実施概要
(1)検査日時:2023 年 1 月 24 日(終日)
(2)検査場所:公益財団法人日本デザイン振興会本部
(3)内閣府検査官:内閣府公益認定等委員会事務局兼大臣官房公益法人行政担当室
(4)立入検査の目的
内閣総理大臣及び公益認定等委員会委員長の命による(公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 27 条第 1 項及び第 59 条第 1 項の規定に基づく)立入検査の実施。
(5)改善指導に従わない場合には、「公益法人認定」の取り消し措置が取られる場合がある。
検査実施項目(主なもの)
(1)会務管理関係(評議員及び役員の就任関係書類、議事録の整備、書面決議書類など)
(2)財務、経理処理関係(財産目録、付属明細書など)
(3)監査報告書(記載)
(4)財産目録、固定資産台帳、事業報告書別表C(2)の整合性など
(5)配賦率の根拠
検査後の内閣府指摘事項
(1)会計規則に残高確認条項を新設

上記の指摘事項については、理事会、評議員会の決議を経て改正を実施した。

7. 資産管理の現状

(1)保有資産
今年度は早期償還、新規購入等債券の移動はなし。評価額は、前年度末に対して、基本財産・特定資産において減少、投資有価証券においても減少した。運用利息は、前年度と同程度であった。

(2)基本財産・特定資産の構成割合と評価額・運用利息

	資産割合			評価額(円) (3.31.現在)	利息(円) (年間)
	預金	仕組債	国債・地方債・社債等		
2018 年度	3.6%	7.5%	88.9%	1,590,424,620	22,577,322
2019 年度	3.1%	6.5%	90.4%	1,581,673,430	21,801,972
2020 年度	3.2%	6.5%	90.3%	1,546,854,820	23,413,060
2021 年度	3.3%	5.9%	90.8%	1,492,527,410	21,438,589
2022 年度	3.5%	6.0%	90.5%	1,408,956,150	20,904,977

8. 国内外におけるGマーク関連商標登録の現状

商品分野における「G マーク」商標登録に加え、2022 年度からスタートした「グッドデザイン・ニューホープ賞」事業で使用するロゴマークと標準文字による商標登録を取り組んだ。

（1）国内

①「グッドデザイン・ニューホープ賞」におけるロゴマークと標準文字（カナ表記・英語表記）による 3 種の商標登録を 9 区分に対して出願し、2022 年 12 月に登録済み。

②商品分野において「G マーク」商標登録をしていなかった 14 区分に対し、2021 年 9 月に防護標章（著名商標）登録申請を行い、2023 年 2 月に登録済み。

（2）海外

2020 年 10 月にトルコ、インド、インドネシア、シンガポール、タイ、韓国、ドイツ、アメリカ、香港、台湾において、第35類及び第42類における「G マークとロゴ GOOD DESIGN」を申請していたが、2021 年 9 月のトルコ、ドイツ、シンガポール、香港、台湾、2022 年 8 月にインドネシア、2022 年 10 月に韓国にてそれぞれ登録済み。なお、アメリカ、タイは審査継続中、インド、中国は拒絶査定。

9. 新人事制度（資格等級制度、評価制度、報酬制度）移行準備

期待される当会像を実現するためには、社会の変化を先に読み、自ら様々な工夫をすることができる人材が必要であり、かかる人材を確保、育成するために、人事制度の基盤となる諸制度（資格等級制度、評価制度、報酬制度）を見直し、2023 年 4 月 1 日より、職務と処遇の関係を明確化し、努力に報いることができる報酬の仕組みを施行した。

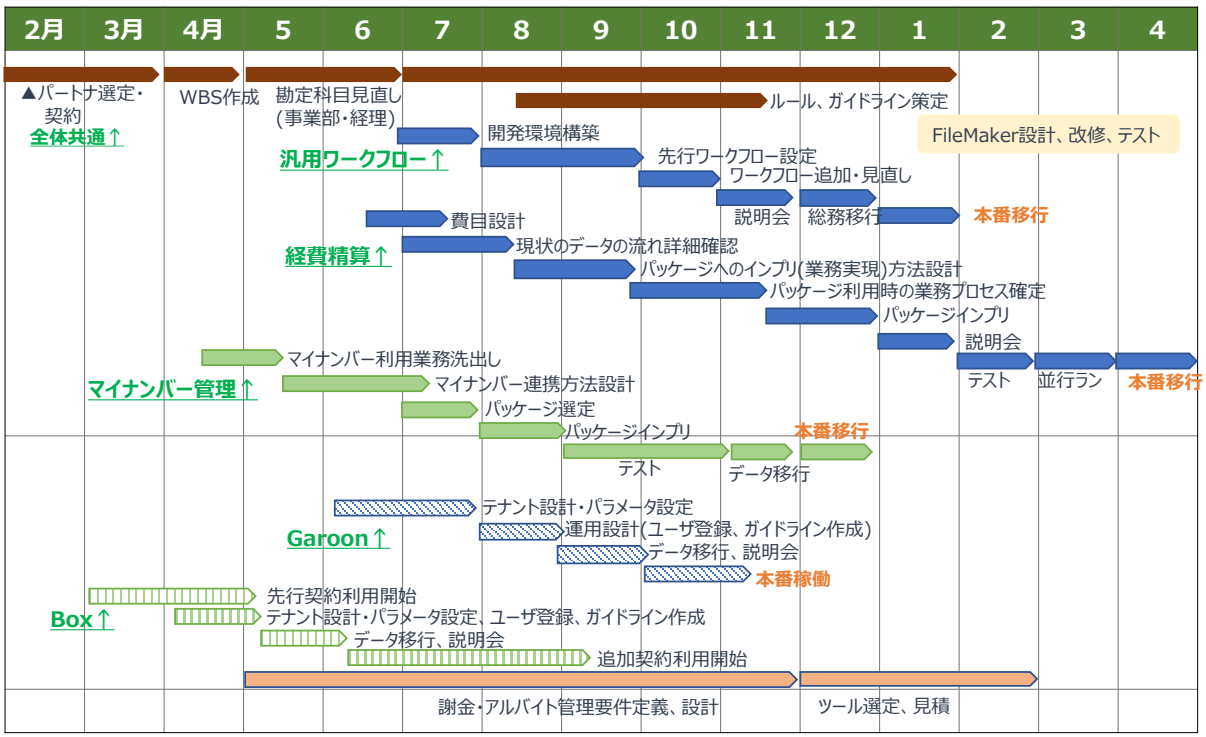
10. 業務効率化、DXの推進

2021 年度よりDX とともに業務プロセス改革に精力的な取り組みを開始し、2022 年度はグッドデザイン賞国内審査料請求/入金業務のアウトソース化をはじめ、コミュニケーション環境高度化(Garoon)、セキュアな情報共有環境整備(Box)、業務効率化＋ペーパーレス化(楽楽精算)を実施した。

この推進状況を踏まえて 2023 年度以降のIT中期計画(2023 年～2025 年)の見直しを実施し、2023 年度はインボイス制度、電子帳簿保存法等の法対応をはじめ、ネットワーク環境の高度化、給与・報酬管理業務の改善を中心にDX＋業務プロセス改革を推進する。

【2022 年度実績】

・Box、Garoon、楽楽精算、マイナンバー管理システムの稼働。
・セキュリティ対応方策決定。



【2023 年～2025 年 IT 中計】

1．インボイス制度、電子帳簿保存法対応。
2．ネットワーク環境の高度化。

分類	2023年 上	2023年 下	2024年 上	2024年 下	2025年
事業PF	DMP、DDB構築、若手人材育成対応、WDA/WDO対応等は事業部で実施 **海外審査料請求・入金対応** 2022/5～決裁代行導入		エントリーサイト組込検討		
経営PF	**労務、給与、報酬、法定調書設計(勤怠、謝金、アルバイト管理等全体をどうするか)** 現状把握		設計、要件定義、サービス検討		本番
	ワークフロー追加(新規支払先申請、固定資産関連申請、リエゾン利用申請等) 新規支払先・固定資産申請	リエゾン利用申請	**Filemaker取扱議論**		
	法対応(電子帳簿保存法、インボイス制度、電子契約導入等) 対応準備、周知徹底		電子契約導入、インボイス制度開始(2023/10～) 電子帳簿保存法開始(2024/1～)		
法人PF	**通信環境改善(ネットワーク、メール、電話等改善)** 導入準備		新ネットワーク稼働(2023/9～) 資産管理・監視稼働(2023/11～) クラウドPBX導入		
	セキュリティ強化と利便性向上(攻撃防御、感染時対応善) UTM設置・稼働 シングルサインオン導入 EDR導入				
ITBCP/ガバナンス	IT-BCP策定、監視精度向上と役職員防御/ブランド堅持				
定着化	Box、Garoon、楽楽精算、オフィスステーション等稼働システムの定着化(勉強会等で便利機能紹介等)				